

羽生市議会議員 動かせ羽生！ゼロからの挑戦！



# 中島 なおき 無所属 38 歳

BLOG 「ゼロからの挑戦日記。」ほとんど毎日更新中！

中島なおき |

検索

決意

前職を覚悟と決意で退職し、単身、政治活動を始めてから四年が経過します。決して初心を忘れることなく、常に足元を見つめながら、羽生市の発展のみならず、「持続可能な世の中の構築」、「共生社会の実現」に向け、精いっぱい活動を続けて参りました。

「市議会」という合議体の中では、唯一の三十代の議員であるがゆえ、議員としての価値観の相違と、世代の懸隔に多くの戸惑いを感じながらも、自己主張だけが能ではないということを学ませていただき、おかげさまで多くの政策を実現するに至っております。

そして、議会での提言のみならず、定例会ごとに約一万部の広報誌を配布、休むことなくブログを更新、政務調査費の使途全面公開、議会報告会を開催するなど、選挙の前だけではない、目に見える活動を続けております。また、若手政治家養成塾の副代表に就任し、後進の育成に励むとともに、埼玉県内外の若手議員たちとの積極的な活動や自身の発言がテレビ、新聞、書籍などに大きく取り上げられるなど、新たな政治スタイル、議員としての活動スタイルを求めて続けております。

そんな志半ばの現在、本年四月には統一地方選挙が行われます。中島は、あくなき挑戦をすべく、全力で春を駆け抜ける決意でおります。

「ゼロからの挑戦」第二章の始まりにみなさまのお力添えをよろしくお願い致します。

羽生市議会議員 中島 直樹

2010年 中島なおき 3大ニュース

●TBSテレビ「総力報道THE NEWS」に堂々登場。市議会議員年金の見直しを全国に向けて訴える。

昨年、1月27日に早朝6時から5時間半の取材を受け、2月9日午後7時から右記の番組で放送されました。その影響は微々たるものですが、市議会議員年金は本年6月に廃止が見込まれています。

●若手政治家養成塾 副代表に就任

中島自身が選挙のイロハ、政治のイロハを学んだ「若手政治家養成塾」。先代の皆さんから受け継ぎ、中島が副代表に就任しました。本年の統一地方選挙で塾生6名が市政、区政、県政にチャレンジする予定です。

●公職研「自治体職員研修」から執筆依頼。議会を変える議員をつくるを寄稿

若手政治家養成塾副代表として、羽生市議会議員として、地方自治専門誌から議会改革について4800字の執筆依頼がありました。

(本号から数回に分けて掲載させていただきます。)

忘れていません！

〜三つの約束〜

- ①活動レポートを作成、配布し続けます。
- ②政治活動を公開し続けます。
- ③羽生の魅力を埼玉県内外に広めます。



ごく普通の若者がわが子の生誕をきっかけに、自らが住むまちに目を向けるようになる。しかし、自分の住むまちにすら関心なかった若者である。議会について詳しく知るはずもなかった。

市政、議会について調べてみると、議員の数は20余名、平均年齢は60歳を超えており、同世代の代弁者が一人もいないことがわかった。この時、自分のまちについて調査を通して詳しくなっていた若者は、市の平均年齢が44歳であることを知っていた。市民と議会にここまでの世代差があるとは…。そんな状況を傍観するわけにはいかなかった。

資金も組織も持たず選挙に挑み、当選したという候補者を数知れず見聞きするが、果たして都市部とは決して言えないこのまちで本当にそんなことが通用するのだろうか。そんなときに新聞で「若手政治家養成塾・塾生募集」の記事を目にする。

●第1期 若手政治家養成塾(平成18年9月)

塾役員構成

代表幹事 兼 塾長 白土幸仁 (春日部市議)  
 事務局長 (会計) 菅原文仁 (戸田市議) 副代表幹事 兼 神奈川塾長 大桑正貴 (横浜市議) 監査 平松大祐 (新座市議) 広報担当幹事 永沼宏之 (行田市議)・松本武洋 (和光市議)

※ 肩書きは当時のもの

塾の設立趣旨は「2006年夏、関東の若

手地方議員有志は『地盤・カバン・カンバンは無くとも高い志で政治家を目指す若者を支援し、地方から日本を変える』ことを目的とし、党派に属さない若者の議会進出を支援します。若手政治家養成塾は、単なる当選だけを目的とせず、次世代の責任あるリーダーを養成します。特に、下記の3つの力を鍛錬していきます。

- ① 政治哲学を持ち、これを背景に自ら政策を探求する力
- ② 政策実現のため自ら行動する力
- ③ リーダーとして人を惹きつける力

平成18年9月に埼玉県内の20代から30代の若手議員が中心となり開講した。翌年の平成19年4月の統一地方選挙に向け、地方自治の基礎から街頭演説のノウハウを伝授し、一人でも多くの若手議員を増やすのが目標であった。

塾生として応募してきたのは約40人。小論文(テーマは「私が政治家になったら」と面接で選考し、半分に絞った。政党や特定の支持団体がいない人を対象としているため、親の地盤を引き継ぐような人の入塾は認めなかった。

そして、9月中旬に「若手政治家養成塾」は開講された。塾生は20名でスタート。塾生の中には会社員、主婦、自治体職員、教員、フリーターなど多種多彩の人々が集まった。

平成19年1月までの6回の講義で、1期目、2期目の現職若手議員らが徹底的に選挙ノウハウを伝授。政策、ポスター、チラシの作り方、配り方、マイクの持ち方に目線の置き方まで細部に至る指導、街頭演説やチラシ配りなどの実習も行われた。

選挙ノウハウだけではない。現職若手議員が講師役を務め、「地方議会の現状」や「マーケティング」の講義を行い、教育施策の先進自治体への視察も実施した。財政指標の読み取り方、自分の住む自治体の課題や特徴を見つけ方など、講義内容は多岐にわたるものであった。

また、年が明けて、人々の興味が統一地方選挙に向いてくると、テレビ、新聞、雑誌等、複数のマスメディアからの問い合わせもあり、若手政治家養成塾の活動がゴールデンタイムにテレビの全国ネットでお茶の間に届けられるということもあった。

塾生20名のうち、正真正銘「地盤、看板、カバン」なしで6名が統一地方選挙で市区議会議員選挙、首長選挙に立候補。統一地方選挙から時期をずらして3名が立候補するも、結果は厳しく、2勝7敗で第1期の「若手政治家養成塾」としての活動を終えた。

次号へ続く…。